

物性委員会の可能性

東北大・理

倉本義夫

学術会議の再編と物性委員会

- 第19期まで
 - 物理学研究連絡会議(物研連)
 - 物性百人委員会
 - 第20期：2005年10月1日以降
 - 物研連を廃止
 - 新物性委員会
 - 2006年3月の物理学会年次大会での議論
 - 物性コミュニティのボランティア組織
-

物性委員会の組織

- 全国にほぼ190グループ，委員250人
- 事務局（2006年10月より東北大・理）
 - 委員長：倉本義夫
 - 事務局長：村上洋一
 - 事務局幹事：石原純夫，岩佐和晃
- 幹事（20名を選挙により選出）
- 経理
 - 各グループからの会費により運営
 - 事務局交代時に会計監査

物性グループが関与した提言

- 物性研究拠点整備計画
 - 1996, 2000: 学術会議対外報告, 物研連報告
 - 中・大型施設整備を物性コミュニティとして提言
 - シンクロトロン建設(物性研 > 東北大)
- 研究分野を横断する滞在型共同研究推進
 - 2005: 物研連報告
 - 2007: 基礎物理学研究所の概算要求成功?
- JPSJの発展に向けて
 - 2005.1: 物性グループ有志の声明

国立大学法人化による変化

- 全国共同利用研究機関の制度変更
 - 大学への帰属性が強まる
 - COE申請などで同一大学の他部局と連携
- 競争的環境の強まり
 - 法人間の利益相反
- 実験施設整備状況の格差拡大
 - 地方大学の厳しい状況
 - 高等教育の全体的向上をどうするか

国内外情勢の変化

- 研究から教育への予算投入シフト
 - 野依COE委員長の就任挨拶
 - 少子化による若年層の質の低下
 - 研究投資効率が低いことへの反省
 - 研究者の各種不祥事の連鎖
- アメリカの研究・教育政策
- ヨーロッパでの研究・教育政策
- アジアでの研究・教育政策

RISING ABOVE THE GATHERING STORM

*Energizing and
Employing America
for a Brighter
Economic Future*

NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES,
NATIONAL ACADEMY OF ENGINEERING, AND
INSTITUTE OF MEDICINE
OF THE NATIONAL ACADEMIES

米国科学アカデミー報告書 (2006年2月)

- * 21世紀の米国が必要とする科学・技術を推進するための最重要政策を提言
- * 物理, 工学, 数学教育の重要性を強調
- * 中国, インドとの競争を強く意識
- * 日本に対する言及はほとんどない。

STATE OF THE UNION ADDRESS BY G.W. BUSH

(January 31, 2006)

American Competitiveness Initiative

- * double the budget for basic research in the physical sciences
In the next 10 years
- * math and physics for children

物性委員会の任務

ーコミュニティの意見集約と行動

- 共同利用研究所へのコミット => 委員推薦
 - 草の根の意見を反映する数少ない機会
 - 投票数が少なすぎる(一桁で当選する例)
- 大型施設の利用の改善にコミット
- 各種規模のバランスを生かした研究・教育体制の構築
 - 研究・教育生態系の破壊を阻止し, 育成
- 物理学会の改革にコミット
 - 年会, 分科会の改革に協力
 - JPSJの強化・発展に協力
- 若手研究者の育成にコミット

物性委員会と各種コミュニティ

- 物性物理学全般
 - 分野に偏りがいいのか？
 - 物理学会に限ってよいか？
- より専門的なコミュニティとの連携
 - 中性子
 - 放射光



恒常的活動の展開へ向けて

- 年会と分科会の委員会だけでは不足
- 今回のような研究会を毎年開催？
- 事務局，幹事20人によるリーダーシップ
- 大型施設の運営・利用計画にコミット
- 若手育成へのコミット
- 拠点形成計画の批判的検討と将来像？